

令和 7 年度モニタリングシート

【施設名等】

施 設 名	大洲家族旅行村	位 置	大洲市菅田町大竹乙 938-1
指定管理者名	株式会社おおず家族村	所管課	商工観光課

【施設の概要】

設置年月日	平成2年4月1日	構 造	木造平屋建ほか公園施設
設置目的	恵まれた自然環境の中で、家族や小グループが楽しめる観光レクリエーションの場を確保し、もって健康及び福祉の増進と地域振興に資する。		
施設機能	オートキャンプ場 ・キャンプサイト 16サイト(うち電源付き2サイト) ・コテージ 2棟(6人用)、2棟(8人用) ・管理舎 ・炊事棟 ・便所 ・帯施設 車路、バーベキュー施設、倉庫等 ピクニック緑地 ・スロープガーデン ・じゃぶじゃぶ池 ・ファミリー園地 ・ファミリーガーデン(果樹園、園路、東屋2基) ・見晴らし広場 ・ちびっ子広場 ・管理棟(事務所、便所、休憩室、機械室)		
利用料金等	テントサイト1サイト 2,200 円 コテージ 6 人用 11,000 円～ コテージ 8 人用 13,200 円～ その他レンタル用品、販売品など		
開館・閉館	営業時間 8:30～17:00 ただし利用者のいる場合は 24 時間常駐		
指定管理 業務内容	(1)施設の管理運営に関すること (2)施設及び設備並びに備品の維持管理に関すること (3)誘致及び施設の利用促進に関すること (4)施設の利用許可に関すること (5)利用料等の収受に関すること (6)情報発信事業に関すること (7)施設賠償責任保険に加入すること (8)利用者の安全の確保に関すること (9)個人情報保護に関すること (10)業務報告に関すること (11)その他管理運営に関し必要な業務		
施設管理体制	常勤2名 パート2名 宿直パート 1 名		

【施設利用者数】

(単位:人)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
R 7 年度	626	349	176	262	623	243
R 6 年度	528	423	444	267	675	209
比 較	98	▲74	▲268	▲5	▲52	34
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
258	464	242	131	139	311	3,824
295	487	254	140	97	318	4,137
▲37	▲23	▲12	▲9	42	▲7	▲313

【指定管理者としての収入・支出(決算)】

(単位:円)

収入内訳	収入金額	支出内訳	支出金額
指定管理料	10,791,000	仕入高	602,769
売上高	7,768,370	人件費	11,195,027
自販機売上	193,000	水光熱費	2,005,260
利息	3,870	通信費	118,186
前年度売掛金	41,650	消耗品費	472,607
		修繕費	305,519
		その他経費	4,025,646
(前年度繰越金)	1,712,476	(次年度繰越金)	1,718,696
(預り金増加分)	79,444	(次年度繰越売掛金)	146,100
		(預り金減少分)	0
合計	20,589,810	合計	20,589,810

【サービス向上に向けた取り組み】(R2 年度～)

R2 年度	新型コロナウイルス感染対策(消毒液、使い捨てスリッパ設置、除菌清掃など) キャンパー向けサービスとして、キャンプステッカーボード設置、肱川トーチ販売、 焚き火台、竹灯籠用キャンドル購入など 焙煎珈琲の販売、電子レンジとケトル設置
R3 年度	無料開放イベント年3回開催、四国アウトドアスタンプラリー参加 キャンプ場文庫開設(無料貸出しなど)、コテージテラスに防火シート設置
R4 年度	南予きずな博きずなカード特典サービス DIY 工作キット販売開始 銘柄まき、まき割台販売開始 Paypay 払い対応開始、
R5 年度	キャッシュレス決済開始(クレジットカード決済、みきゃんアプリ決済) EV 車充電器設置に向けた準備 販売品目の拡充(冷凍焼肉セット、燻製ナッツ)
R6 年度	EV 車充電器設置 防災講習会(大洲市社会福祉ボランティア協議会) 販売品目拡充(冷凍食肉、肉巻きおにぎりなど)
R7 年度	キャンプ場オフ会開催(キャンパー交流イベント) 肉巻きおにぎり、燻製ナッツ販売開始

【利用者から要望と対応状況】

利用者からの苦情・要望への対応

キャンプ場を気持ちよく利用していただくため害虫対策には最も気を配っている。早めに防虫剤を散布するなどして、極力発生を抑えるよう努めた。9月にスズメバチが多く発生した際には業者に依頼し、巣の駆除をしていただいた。(2か所) 周辺環境の影響で致し方ないところはありゼロにはできないが、他の害虫も以前と比べると少なくなっている。

接客については利用者とのコミュニケーションを第一に心がけており、来場時から積極的に声をかけるようにしている。定期的な巡回も実施しているため、騒音や利用者間のトラブルはほとんどなかった。また防火の点からも夜間の巡回は入念におこなっている。令和8年1月1日から「林野火災警報」の運用が始まり、発令時には焚き火等が禁止となった。特に警報の出やすい冬場は多くの利用者が焚き火をするので、情報の提供や注意喚起のチラシを配布するなどし対応した。消防署には利用がある日ごとに届出書を提出している。

その他では、バリアフリーに関する問い合わせが時々あり、未対応の旨を説明している。施設のバリアフリー化は今後の検討課題といえる。

【指定管理者の自己検証】

令和7年度の利用実績は利用者数が前年比 97.1%で微減、売上額は 105.7%で微増だった。売上額については令和7年4月から利用料金の一部を値上げしているので実質ほぼ横ばいといえる。

ここ最近の傾向としては、コテージ、テントサイトの利用割合や月別の利用者数はあまり変化が見られない。テントサイトの利用者層ではキャンプ愛好家の定着によりソロキャンプや女子キャンプが増加している半面、家族でのキャンプが減少している。現在のキャンプ人口は減少傾向にある一方で、キャンプ場の新設やグランピングやサウナ設備などを備えたりリニューアル化は活発化しており、今後も競争の激化が予想される。

当施設は開設から30年以上経過していて建物などは老朽化が進み、設備では他の同業施設と比べて劣っている点が多い。予算の面でも今すぐのテコ入れは困難な現状において、これからも引き続きこの施設の長所を生かした運営を心がけていきたい。(交通の利便性、手ごろな料金、リピーターの定着など) またコロナの影響で減っていた団体での利用も増えてきているので、手ぶらバーベキュープランや食材の提供を中心に利用者にアピールしていきたい。

これまで年3回開催していたキャンプ場無料開放イベントを春と秋の2回とし、今年度から新たにキャンパー交流イベントキャンプ場オフ会を実施することにした。おもにSNS などを通して初心者からベテランまでのキャンパーを募集し交流を図るもので、好評につき次年度は年2回実施する予定にしている。さらに今後もInstagramを活用し、キャンプの魅力を発信していきたい。

現在のテントサイト数は16サイトだが(開設当初は27サイト)、ここ最近の傾向として、キャンプ形態の多様化にともない広い場所を必要としないソロキャンプからテントの大型化やキャンプ用品の多種化、グランピングカー、トレーラーなどの増加などで、今のサイトの広さでは収まりきらない場合もでてきている。このことをふまえて、今後は利用用途に応じたテントサイトの区画の見直しや料金の差別化などが必要といえる。料金に関しては、今年度4月からの利用料金変更の際にソロキャンプ割など少人数での利用の特典を設けている。

【施設所管課の検証・評価】

施設設備の老朽化や立地環境といった厳しい条件下においても、適切な修繕対応や林野火災注意報・警報への迅速な対処など、良好な管理運営がなされています。キャンプブームが沈静化しつつある中、今後も現有資源を最大限に活用し、SNS 等を通じた情報発信や新たな自主事業の展開により、新規顧客層の獲得に向けた取り組みを継続されることを期待します。